

事務事業名		農作業体験交流活動委託事業及び体験学習補助金交付事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成14 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	20 地域の特性を生かした農林業の振興			
	基本事業名	02 農業の担い手の確保			
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 06 01 03 14	
所属	部課名	農林水産部 農林課			
	課長名	田中 聖一			
	係名	農政係	電話 27-3111		
	担当者	佐藤 類	内線 7123		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・農地を持たない市民あるいは小学生を対象に、農業の体験や学習をしてもらう。 ・農作業体験交流活動は、都市住民を対象として米づくりを中心に農作業を体験させる事業で、市内の農業生産組織に委託する。委託料は260千円。委託料は、種苗代、肥料代、薬剤代、機械借上料、水田管理費、人件費等に支出されているが、平成23年度から震災の影響により実施を見送っている。 ・農作業体験学習補助金交付事業は、市内の小学校で行う農業学習に対して補助金を交付する。補助金額は1校あたり130千円。補助金は、種苗代、資材代、講師謝金等に使われている。					
全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称	単位
・市内2つの小学校(猪川小、日頃市小)で行う農業体験学習事業に補助金を交付した。 ・農作業体験交流活動は、震災の影響により中止した。	ア 農作業体験交流活動実施日数	日
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ 農作業体験学習実施校数	校
市内2つの小学校(猪川小、日頃市小)で行う農業体験学習事業に補助金を交付する。	ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・市民 ・市内の小学生	名称	単位
	カ 市の人口	人
	キ 市内の小学校児童数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
住民や小学生等に農作業体験交流活動や農業についての学習をしてもらい、農業についての関心や理解を深めてもらう。	名称	単位
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 農作業体験交流活動参加人数	人
担い手が確保される。	シ 農作業体験学習参加児童数	人
	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
投入量	事業費	財源内訳	単位						
			千円						
		国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A)	千円						
			千円						
			千円						
			千円						
			千円	260	390	260	260	390	260
			千円	260	390	260	260	390	260
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	24	80	50	50	50	50
		人件費計(B)	千円	96	320	200	200	200	200
		トータルコスト(A)+(B)	千円	356	710	460	460	590	460
⑤活動指標	ア	日		-	-	-	-	-	-
	イ	校		2	3	2	2	3	2
	ウ								
⑥対象指標	カ	人		-	-	-	-	-	-
	キ	人		1,930	1,798	1,746	1,649	1,621	1,600
	ク								
⑦成果指標	サ	人		-	-	-	-	-	-
	シ	人		388	613	401	377	448	350
	ス								

事務事業ID	0517	事務事業名	農作業体験交流活動委託事業及び体験学習補助金交付事業
--------	------	-------	----------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成14年度から中山間地域等の振興のため、農業を経験したことのない市民に農業を理解してもらう目的で始まった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
農村と都市住民の交流を目的としたグリーン・ツーリズムの推進等により、全国各地で農業体験が行われている。
食品の偽装事件等を契機に、食の安全・安心にかかる国民の関心が深まり、食育の一環として農作業体験の重要性が見直されている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
事業を実施している小学校から、事業継続を要望されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	農業や農村に対する理解が深まり、関心を持ってもらうことで、将来的に農業の担い手になる可能性が生まれる。 国産の農産物に対する信頼度があがる。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	市民や小学生に食や農業について理解をしてもらうことで、地産地消が進み、農業の担い手の確保につながるから、行政関与は妥当である。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	農業を経験したことのない市民や小学生に、農作業を体験させることにより、農業への理解を深めさせる事業であり、対象、意図とも妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	農作業体験交流事業は、現在の事業費では、受け入れられる人数には限界があることから、予算を増やして数箇所を実施することにより、市民の参加者が増加する。 農作業体験学習事業は、実施校を増やすことにより、多くの児童に体験させることができる。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	農作業を体験したいという人が、市内で農業にふれる機会をなくすことになる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	他に類似する事業はなし。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	事業費が、種苗代、資材代等必要最低限の経費であり、削減の余地がない。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	最低限であり、削減余地はない。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	一般市民に対しては市の広報等を使って募集しているので、参加機会は均等に与えている。	

事務事業ID	0517	事務事業名	農作業体験交流活動委託事業及び体験学習補助金交付事業
--------	------	-------	----------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 震災の影響で26年度も農作業体験交流活動は見送ったが、当面は復旧復興事業を優先する必要があるため、実施を見送らざるを得ない。体験学習については、今まで事業実施していない学校からの要望等があった場合には、実施できるよう協力していきたい。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 当面は、現状の事業費で対応することで成果を維持していく。 農作業体験学習事業は、事業実施校が増加すれば、成果の向上が期待できる。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	農林課長 田中聖一

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 担い手確保という点では必要な事業であるが、農作業体験学習は実施する学校(PTA)がある程度限られてきている。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 限られた予算の中で、農作業体験学習は輪番制で実施などを検討しながら、事業は継続していきたい。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
